

<p>■After 建築名称 下段: 英語名</p>	<p>DAMS(Discipline delle Arti, della Musica e dello Spettacolo) DAMS (Department of Arts, Music and Show)</p>		
<p>建築用途</p>	<p>大分類 教育</p>	<p>小分類 大学</p>	
<p>改修設計者</p>	<p>マスタープラン:Aldo Rossi, 実施:Roberto Scannavini URL</p>		
<p>所在地</p>	<p>Piazzetta P. P. Pasolini, Bologna <a href="#">Google Map</a></p>		
<p>改修年</p>	<p>2003</p>		
<p>建築規模</p>	<p>敷地面積:4,200㎡</p>		<p>After 門の奥に旧工場建屋が見える 撮影者 柳沢伸也 2017年撮影 提供者</p>
<p>掲載書誌</p>			<p>概要 after 第二次世界大戦まで使われていた旧食肉処理場の建物は、2003年に大学付属のマルチメディア機能の拠点施設として再生された。</p>
<p>賞・選定</p>			
<p>資料・その他</p>	<p><a href="https://corsi.unibo.it/1cycle/DramaArtsMusic">https://corsi.unibo.it/1cycle/DramaArtsMusic</a> URL</p>		
<p>■Before 建築名称</p>	<p>macello comunale(市営食肉処理場)</p>		<p>概要 before 第二次世界大戦まで、隣接するパン工場や塩貯蔵庫とともに、ボローニャの食料供給を支える市営の食肉処理場として機能していた。</p>
<p>建築用途</p>	<p>大分類 生産</p>	<p>小分類 工場</p>	
<p>■図 配置図 地区全体の配置図</p>	<p>■写真 After 旧建物の間に鉄骨造のホールを増築</p>		<p>After 既存建物間に増築されたホール内観</p>
			
<p>作図 柳沢伸也</p>	<p>撮影者 柳沢伸也 撮影 提供者</p>	<p>撮影者 柳沢伸也 撮影 提供者</p>	
<p>■リノベーション内容</p>	<p>キーワード 増築、補強、産業遺産、用途変更、遺構、海外</p>	<p>内容 第二次世界大戦まで使われていた旧食肉処理場の建物は、2003年マルチメディア機能の核施設に再生された。建物には大学演劇芸術音楽学部(DAMS)とコミュニケーション・サイエンス学科、及び映画修復で世界的な評価を受けるフィルム・ライブラリー財団が誘致された。フィルム・ライブラリー財団による図書館とアーカイブの他、スタジオが置かれ、映画の視聴、教育、研究及び出版制作が行われている。設計は建築家アルド・ロッシ(1931~1997)の後、都市計画局の建築家ロベルト・スカンナヴィーニが引き継いだ。既存の平行な工場配置を生かし、既存建物間のスペースに新しく鉄骨造の屋根をかけて内部化している。図書館入口には真っ赤な円柱状の玄関ホールを設け、中心性を持たせた。歴史的な記憶を残すため、建物ファサードには牛や豚の彫像サインが残され、煙突は空調機械設備用に転用された。新たに増築された部分は、建築材料を変えて、既存との対比を明確にしている。開設とともに、地区名称はそれまでの「旧タバコ工場地区」から「芸術工場地区(La Manifattura delle Arti)」へと変更された。</p>	
<p>■備考</p>	<p>ボローニャ市は地元の音楽文化の促進のため、芸術工場地区に本格的なクラシック音楽ホールを建設することを計画し初期段階では開発対象区域外だった土地を取得した。この音楽ホール建設により、旧タバコ工場地区は映画及び音楽に関する次世代を担う創造産業拠点としてより一層強化される。建築家レンゾ・ピアノとアレッシェンドロ・タルディによる音楽ホールの基本設計案では座席数1800席のシューボックス型音楽ホールが建設される予定である。しかし建設費の予算措置や着工のめどはまだ立っていない。</p>		
<p>■作成者 氏名/所属</p>	<p>柳沢伸也/JIA再生部会</p>	<p>SY-35</p>	